



## 演奏曲目



1

ブラームス / ハンガリー舞曲 第1番

Johannes Brahms : Hungarian Dances No.1

2

グリーグ / ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

Edvard Hagerup Grieg : Piano Concerto in A minor Op.16

独奏：小林垂矢乃(ピアノ)

休憩 (15分)

ドヴォルザーク /

3

交響曲第9番 ホ短調 作品95「新世界より」

Antonín Dvořák : Symphony No.9 in E minor "From the New World" Op.95



## 曲目解説



### ブラームス / ハンガリー舞曲 第1番

ドイツの「3大B」のひとりヨハネス・ブラームス (1833-1897) は、シューマンによってその才能を見出された。20歳のブラームスの訪問を受けたシューマンは、彼に次世代の「新たな道」を見出し、『音楽新時報』誌上でこの青年の輝かしい将来を予言したのだった。その後ブラームスは4つの交響曲をはじめとして絶対音楽の分野に優れた作品を残し「新古典派様式」の確立へと向かってゆく。

この『新たな道』が、やがて音楽評論家ハンスリックによって「ベートーヴェンの正当な後継者」と支持され、ワーグナーなどのロマン主義に対する対立項として担ぎ出されることとなるのである。

重厚な作品のブラームスの音楽の中で、全4集21曲からなる「ハンガリー舞曲集」は広く人気を集めているもののひとつである。